



発行所 伊方町 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦 796-03 伊方局38-0211 編集 豊 務 課 印刷所 豊 豫 社 八幡浜市松柏 22-0144

青年国際交流会

国境を越えた友人づくり



伊方町青年国際交流事業



交流会で親ほくを深めた参加者たち

豊かな国際性と高い社会参加意欲を養ってもらおうと、青年と愛媛大学留学生との国際交流会が町、町人権擁護推進協議会主催で八月二十日、保健センターで開催されました。

この交流会は、世界人権宣言が採択されてから四十周年にあたる昨年、国の方針として打ち出された「国際化時代にふさわしい人権意識を持った人づくり」を町内において進めるため、次の世代を担う若者を対象に、今年初めて開かれたものです。

交流会には、町内の青年団員や中学校教師、各職場から選ばれた二十代の若者十一人、愛媛大学からは、李方さんら中国、マレーシア、タイ、ブラジル、インドネシアの留学生や家族の方十二人が参加。はじめに、人権擁護推進協議会の小川文一郎副会長が「胸

襟を開いて語り合い、お互いを信じ尊重しあえる良き友づくりの機会をとらえてほしい」とあいさつ。福田町長の歓迎のあいさつ後、自己紹介に移り留学生のみなさんは不慣れな日本語に苦労しながら自己PRを行っていました。

懇談会では、研修テーマにあげた生活、文化、産業、教育からエネルギー問題など、数多くの項目についてお互いの国の事情を話し合いました。中でも、日本と母国との相違点などの間に、タイのチャラードさんは「寒いとき、しもやけ」になった。体は元気なのにときどきかゆくくなる変な病気。と笑わせてくれたり、ブラジルの玉井アンナ真弓さんは「顔が日本人に似ているのであれこれもを尋ねてもあまり親切に教えてくれない。日本人は、日本人に対して不親切な気がする。また、留学

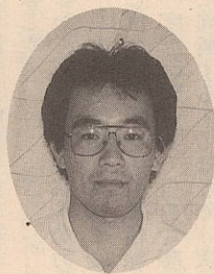
生同士はすぐに友達になれるが、日本の大学生とは友達になりにくい。など、率直ですなおな意見や感想を話し合い、終始活発な意見交換の場となっていました。

このあと一緒にバスに乗りメロデーラインをドライブ。瀬戸の掘切大橋や伊方発電所などを見学。このころになるとお互いに会話ははずみ、いっしょに記念写真を撮るなど和やかなムードで交流を深めていました。

また、最後の反省会で、この交流会は国際感覚や視野を広める機会に大きく役立つとして、来年以降の継続的な開催を望む声が多く聞かれました。

参加して

伊方町青年協議会 会長 田縁 藤治



このような交流会は、初めての経験でしたが留学生の皆さんの熱心な姿勢を感じることができました。

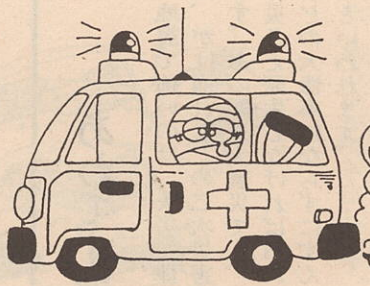
また、日本人の自分達だけでまとまるといった閉鎖的感の原因は機会がないのではなく、自分に勇気がないためにおこるものであるなど、私たちの心の狭さを感じた。

この交流会で体験した国際的な感覚は、これからの自分の一生に大きく役立つことと思う。最後に、この交流会が今回を踏み台にして益々内容のある会になることを期待しています。

日弁連創立40周年記念 無料法律相談

弁護士が、一般法律相談、交通事故相談等について、無料で相談に応じます。お気軽にご相談ください。おと き/九月二日(土)午後二時~五時 三十分(受付:午後一時三十分~五時) 分(五時) ところ/八幡浜市北浜一丁目一番一号 八幡浜市役所五階大会議室 相談内容/一般法律相談・交通事故相談等 主催/愛媛弁護士会・問合せ先(〇八九四一四一六二七九)

9月9日は「救急の日」です。



消防署第二分署における七月末現在の救急出動による搬送人員は百八十七人。本町では六十九人のかたを病院などに搬送しています。これを、病気やケガの程度別にみると軽症(治療のみ)が二十五人でもっとも多く、次いで重症(三週間以上の入院)二十四人、中等症(入院)十九人の順になっています。

また、事故種別としては、第一位急病三十七人、第二位一般負傷十一人、第三位交通事故九人などとなっています。救急車は、火災、水害、地震、交通事故、学校やデパートでの事故、ガス中毒、ケガ等に出動し、急病は緊急を要する場合に利用できます。

九月九日は「救急の日」です。救急業務に正しい理解と認識を深めていただくために、制定されました。救急車は正しく利用しましょう。

119番は 落ち着いて正確に

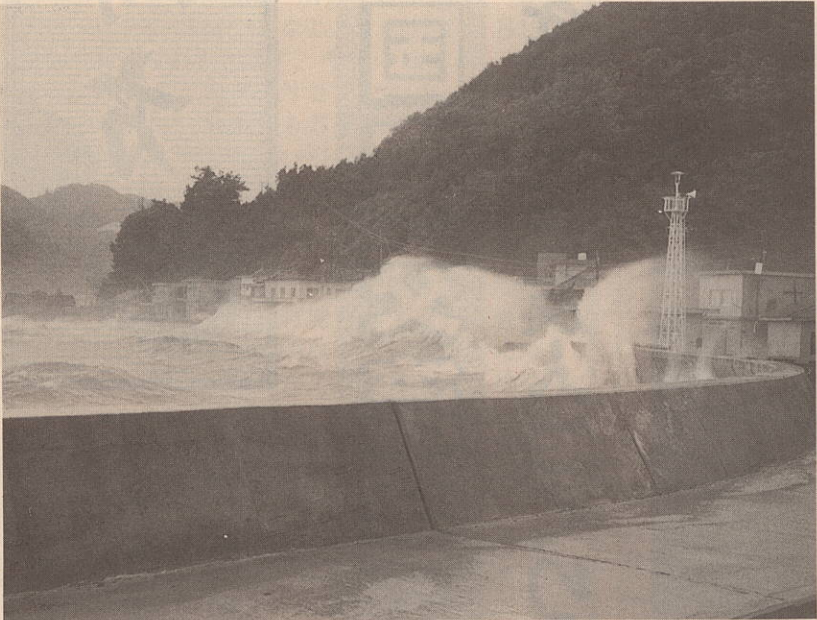
救急車を呼ぶときのポイント



- 事故の発生場所と近くの目標
- どのようなケガか病気が
- ケガ人、病人の容態(簡単に)

台風 地震

日ごろの備えで わが身を守ろう



55年9月 台風13号の高波に襲われる中浦海岸

防災意識を高めよう

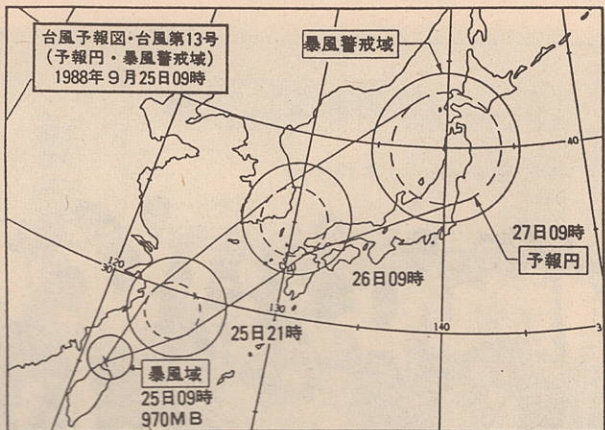
豊かな水に恵まれ、四季の変化の美しい日本。しかし、その一方で、台風の通り道に当たり、地震が多いということも忘れてはなりません。
九月一日は「防災の日」。八月三十日から九月五日までは「防災週間」です。この機会に、台風と地震に対する日ごろの備えを、もう一度見直してみてもどうですか。

台風の正体

熱帯地方で発生した低気圧を「熱帯低気圧」といいます。このうち、中心付近の最大風速が、毎秒十七・二メートル以上のもので日本では「台風」、それ未満のものを「弱い熱帯低気圧」と呼んでいます。
さて台風は、日本付近で毎年どれくらい発生しているのでしょうか。過去三十年間をみると、平均では毎年約二十七个発生し、そのうち三個が日本に上陸しています。上陸

台風は 予測できる

怖いものの代名詞といえば、「地震、雷、火事、おやじ」と昔から相場は決っています。では、なぜ台風はこの中に入っていないのでしょうか。



台風が近づいてからあわてふためいたりしないよう、テレビで放送される台風予報図の正しい見方を覚えておきましょう。
図は昨年の台風十三号の予報図です。この中の「暴風域」とは、平均風速が毎秒二十五メートル以上吹いていると考えられる範囲です。この外側には、平均風速が毎秒二十五メートル未満の強風域があり、予報図には「予報円」として、台風の中心が到達すると予想される範囲です。この円内に、台風の中心が入る確率は六〇%です。「暴風警戒域」とは、予想された時刻にこの円内のどこかが、暴風域になるおそれのある範囲です。
現在、台風予報図は十二時間後と二十四時間後の予報がされていますが、七月一日からは、これに加えて四十八時間予報も始まりました。

正しい情報の見方

しかし、台風の進路や勢力は、まるで生き物のように変化します。ですから台風情報を一度だけ聞いて、自分で勝手に判断するのはなく、次々に出される予報を注意深く聞いて、被害を大きくしないようにしたいものです。



家族で地震対策を万全に

落ち着いて 身を守る

もう一つ、いつ襲ってくるかわからないのが地震です。今から六十六年前の大正十二年九月一日、関東大震災が発生しました。この時の死者行方不明者は、あわせて約十四万人にもなりました。
地震は、いつ発生するか分かりません。いつ起きても落ち着いて対処できるように、常に地震に対する心構えをもっていることが大切です。

地震が起こり、大きな揺れが襲っても、すぐ外に飛び出さず、床の下に身を隠すか、机の下に身を隠すか、壁沿いに立ち、頭を守ります。余震がある場合は、玄関の扉などを開け、出口を確保しておきましょう。これは、地震の揺れで扉がゆがみ、開かなくなってしまう恐れがあるからです。



グラツときたら
あわてず
すばやく

テーブルやベッドなどの下に身をかくしましょう。その際は、座ぶとんやカバン、本などで頭部を守ります。余裕がある場合は、玄関の扉などを開け、出口を確保しておきましょう。これは、地震の揺れで扉がゆがみ、開かなくなってしまう恐れがあるからです。

運転中にグラツときたら

運転中にグラツと揺れを感じたら、危険に備え速度を落して道路の左側に停車させます。避難が必要な大地震のときは、ラジオなどから地震情報や交通情報を聞き、それに応

じた行動をとる。もし、車を道路の上に置いて避難する場合は、窓を閉めエンジンキーは付けたままでドアをロックしないで避難するようにしましょう。

△災害が発生した場合に備えて安全な避難場所や避難経路を確認しておきましょう。
△懐中電灯、携帯用ラジオ、救急薬品、非常食などを用意しておきましょう。
△災害が大きく、混乱しているときは、誤った情報が流れやすいものです。役場、消防、警察など防災機関からの広報や指示に従って、冷静に行動するようにしましょう。

日ごろの心構えが大切

地震で怖いのは、火災、津波、がけ崩れなどの二次災害です。あの関東大震災でも、火災さえ発生しなければあれほどの大惨事にならずにすんだといわれます。
地震が起こったら火を出さない、また火事が出ても初期のうちに消し止める。つまり、なるべく火が小さいうちに消し止める。初期消火がポイントです。火災は状況によって異なりますが、火元からカーテンやふすまなどへ、さらに壁から天井へと燃えうつるまでには三・五分かかります。地震の大揺れ(約一分)がおさまってから消火しても遅くはありません。あわてずに火を消すことが肝心です。

あわてず消火活動を

「ミミリの雨量って
どれくらい?」
天気予報を聞いたりして、よく「雨量」という言葉を耳にします。雨量とは、文字通り地上に降った雨の量のことです。測定の方法は、直径二十センチの円筒を地上に置き、その中にたまった雨水の深さを、ミリメートル単位で測ります。雨量一ミリというとなんて少ないかと感じる人が意外に多いようです。ところが、三十三平方メートル(十坪)の庭に、一ミリの雨に相当する水をまこうとすると、十八リットルのポリタンクで二本分の水が必要なんです。つまり、集中豪雨などで降る百ミリ、二百ミリといった雨は、膨大な水の量ということになります。

民話と伝説

補作/岡村豊 挿絵/山本一路(湊浦)

62

庄屋船の遭難と盆

供を供える。

そして、十三日の夕方には、家族がそろって迎う火に麻木を焚いて霊を家に迎えるのである。家の方に帰ってきた霊は、盆が終わる「送り盆」まで家族と一緒に過ごすのだと教えられましとい。

私らにとって最大の楽しみは、やっぱし盆踊りです。佐田岬半島と、九州は佐賀関町の地藏(関)崎との間の海

毎年、夏になるとなあ、子供のころのお盆を思い出します。お盆は正月と並ぶ大きな年中行事です。旧暦の七月十三日から十六日の間は、村中がいつせいに畑仕事を休んで先祖の祭りごとをしましとい。お盆に精霊を迎えるためのお棚を立て、お位牌を移した後、仏壇をきれいに磨いて、線香やロウソクを灯して、朝、夕はお盆

はなあ、いわゆる「速水の瀬戸」とも呼ばれ、昔から海の難所ともいわれとりました。また、わりあい波穏やかな宇和海でも、時として海が荒れ模様となり、悲惨な海難事故につながることもしばしばあったのよ。

宇和島藩伊達家に残る記録によりますと、嘉永四年(一八五一年)の五月に、二見浦の庄屋二宮清右衛門が、弟

大島)において難破し、乗員九人のうち庄屋二宮清右衛門と船頭五人の外男一人は左嶋(八幡浜市佐島)沖へ流され、真網代浦(八幡浜市)大釜にて、翌十日、救助されたが庄屋の弟常八郎と二見浦藤松の姫は生死不明である。……と届け出があった。と書いてあります。

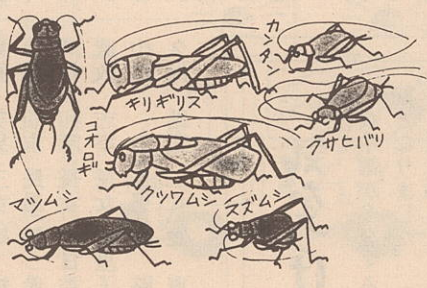
昔はこのようにな、漁師も含めると今までになんほか大勢の人が、海中のもくずと消えていったのでしうなあ。お寺の境内や部落の広場などに櫓を組み、太鼓の音に合わせて「村の盆踊り唄の名人たち」が自慢ののどを競い、老若男女が櫓のまわりを幾重にも取り巻いて輪をつくり、単調なりズムに合わせて、時のたつのも忘れて踊り明かしたものですらい。

の常八郎を従え宇和島城下へ出勤を申し付けられて、五月八日、同浦の太郎次(庄屋役船)に乗り込んで城下に出頭した。常八郎は、翌九日、矢野組の内、下泊浦(三瓶町下泊)の新庄屋役を申し付けられて、同夜戌刻(午後八時ごろ)船出したが、高山浦(明浜町)あたりから真風(南まはたは南寄りの風)が強くなり、穴井浦の内大嶋沖(八幡浜市



孟蘭盆がわが国に中国から伝わったのは、推古十四年(六〇六)じゃそうすらい。豊かな物の時代、核家族化、娯楽の多様化も手伝って、わが国に古くから伝わる行事が次々と失われつつある。先祖を大切に考え、感謝の気持ちを持って、年に一度、先祖の霊をお祭りする盆は、いつまでも大切にしていきたい行事だと思ふ。

虫の飼ひ方
○広い口のびんなどに、土を入れて湿らせる。
○エサに土がつくとカビがはえるので、エサは毎日取りかえる。
○動物性タンパク質を補給して共食いを防ぐために、カツオブシをときき入れる。
○あまり狭い入れ物に、たくさん



秋の虫の鳴き声
鳴く虫は主に、コオロギ、キリギリスの仲間です。
▽コオロギ(コロコロリ)
▽マツムシ(チンチロリン)
▽クサヒバリ(ファイリリリ...)
▽スズムシ(リンリンリン)
▽カンタン(ルルル...)
▽カネタタキ(チーチー)
▽キリギリス(ギー・チョン)
▽クツムシ(ガチャガチャ)



町の話 町の話

第8分団(川永田)初優勝



優勝した第8分団の選手の皆さん

第29回八西消防操法大会が7月30日、八幡浜市松柏中学校グラウンドで開催され、小型ポンプの部で第8分団(川永田)が優勝、第15分団(西久保)が準優勝に輝きました。

第8分団は大会初優勝で、第15分団は4年連続の準優勝と、日頃鍛えた練習の成果が充分発揮された大会となりました。

冷たい麦茶で安全運転

シートベルトやヘルメットの着用を励行しましょう、と八幡浜たばこ組合伊方支部(竹内金義支部長)では、8月8日河内の国道沿いで「交通茶屋」を開設、ドライバーに交通安全を呼びかけました。



炎天下、冷たい麦茶のサービスにドライバーも一服。安全運転でハンドルを握っていました。

大盛況の夕涼み会

7月20日、伊方保育所では親と子のふれあいを楽しもうと、保護者会、伊方地区母親クラブ主催の夕涼み会を開催しました。

夕暮とともに、ポップコーン、わた菓子、カキ氷や手作りおもちゃ屋など夜店コーナーは子供たちで大盛況。また、特設の野外ステージでは、長浜町のボランティア玉井さんによるカカシ踊りやお母さんたちの指人形劇などが行われ、笑い声がはずむなか、親子で楽しい一夜をすごしていました。



伊方大川を美しく

ライオンズクラブ奉仕作業

伊方ライオンズクラブ(二宮泰慶会長)主催で、7月26日、伊方大川の清掃を行いました。

当日は、小中学生、老人クラブ、PTA、町職員など約240名が参加。町の玄関口を流れる大川を美しくしようと、ドロだらけになって雑草を刈り取り、ゴミや空缶を回収しました。



虫の音を楽しもう

暑さが盛りを過ぎたころから、秋の虫が鳴き出します。

スズムシ、コオロギ、キリギリス……と、秋の虫はみんな美しい声の持ち主ばかり、虫の音に耳を傾けて、秋の夜長を楽しんではいかがですか。

